

音楽科学習指導案

日 時 令和4年11月11日（金）
第5校時

場 所 下関市立長府中学校
学年学級 第2学年1組 32名
指 導 者 教 諭 扇 朋子

1 題材名 創作（まとまりがあり、思いが伝わる音楽の創作）

2 題材の目標

- (1) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 言葉のリズムや抑揚と旋律のリズムや抑揚との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

3 題材設定の理由

(1) 生徒の実態から

生徒達は、落ち着いた態度で、授業を受けることができる。また、発表もでき、みんなの前でも物おじせず、質問したり、発言したりすることができる。

1年時に、リズムゲームに取り組み、音符の種類や、その組み合わせで拍子ができることを学んだが、旋律の創作はまだ経験がない。課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表させたい。

(2) 題材及び教材曲について

「ハム」や「きゅうり」、「ズッキーニ」等のリズムを知覚し、そのリズムを音符に起こし、組み合わせで「サラダを盛り付ける音楽」、「サラダを食べる音楽」をつくり、グループ発表を行う。また、さらに自作の短歌から言葉を抜き出し、リズムと音の選択をし、「メロディーの素（モチーフ）」をつくる。またそれを、グループで決めたタイトル「〇〇を〇〇する音楽」のイメージで、組み合わせでグループで演奏する。このことにより、まとまりがあり、思いが伝わる音楽の創作へアプローチしたいと考える。

(3) 指導上の留意点

言葉のリズムや抑揚と旋律のリズムや抑揚とのかかわりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作に取り組めるよう、出来た素材や生徒がどんな音楽をつくりたいかの思いや意図を、確認しながら授業を進めたい。

4 学習指導要領との関連

第2学年及び3学年 A表現（3）創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ 次の（ア）及び（イ）について、表したいイメージとかかわらせて理解すること。

（ア）音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。

〔共通事項〕（1）

（本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「リズム」）

5 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><input checked="" type="checkbox"/> 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 言葉のリズムや抑揚と旋律のリズムや抑揚との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

6 指導と評価の計画（全3時間）

	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態	学習状況の把握
		（ ）内は評評価方法			
1	◆ サラダを盛り付ける音楽と食べる音楽をグループで創り発表する ・ 3～4人のグループに分かれ、一			<input checked="" type="checkbox"/>	

	<p>人ひとつ好きなサラダの材料を選び、「リズムの素」を創る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リズムの素」を組み合わせ、4分の4拍子、2小節のリズムを創ってワークシートに記入する。 ・「サラダを盛り付ける音楽」を創る。 ・「サラダを食べる音楽」を創る ・発表のための練習をする。 	<p>知 (観察・ワークシート)</p> <p>技 (観察・ワークシート)</p>	<p>思 (観察)</p>	<p>(観察・ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拍子を理解して取り組んでいるか ・主体的に練習に参加しているか
<p>2 本 時</p>	<p>◆選んだ短歌の言葉に、メロディーをつけてモチーフを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の「サラダを盛り付ける音楽」と、「サラダを食べる音楽」をつなげて発表する。 ・自作の短歌から、メロディーをつける言葉を選んでワークシートに記入する。 ・使う音、使うリズムをワークシートから選び、「メロディーの素 (モチーフ)」を創る。 ・出来た「メロディーの素 (モチーフ)」を画像で教師に提出する。 ・3～4人のグループに分かれ、選んだ言葉から、グループで創る音楽のタイトル「○○を○○する音楽」を決める。 ・教師が、「メロディーの素 (モチーフ)」を発表する。 	<p>知 (観察・ワークシート)</p> <p>技 (観察・ワークシート)</p>	<p>思 (観察・ワークシート)</p>	<p>態 (観察・ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を楽しんでいるか ・どのような音楽をつくるか、思いをもっているか ・自分の表したいイメージと関わらせて理解しているか
<p>3</p>	<p>◆「メロディーの素 (モチーフ)」を組み合わせ、タイトルに合った音楽を創って発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で創ったそれぞれの「メロデ 			<p>態</p>	

<p>ィーの素（モチーフ）」を、グループで決めたタイトルのイメージに合わせて、組み合わせたり、重ねたりし、まとまりがあり、思いが伝わる音楽を創る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方を考え、練習する。 ・グループで発表する ・学習のまとめをする 	<p>知 技</p> <p>（観察・ワークシート）</p> <p>（観察・ワークシート）</p>	<p>思</p> <p>（観察・ワークシート）</p> <p>（観察・ワークシート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉・旋律のリズムや抑揚に、関心をもち、主体的・協働的に音楽活動を楽しんでいるか ・適切な練習ができていますか
---	---	---	---

7 本時の学習（2時分）

(1) ねらい

- ・自作の短歌に、条件に沿った音の選択や、組み合わせなどができる。
- ・音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解し、「メロディーの素（モチーフ）」をつくることことができる。

(2) 準備物

教科書2・3年上（教育芸術社）、ipad、リコーダー、自作の短歌（文化祭展示作品）、ワークシート

(3) 学習の展開

○学習内容 ・学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
<p>・前時の「サラダを盛り付ける音楽」と、「サラダを食べる音楽」をつなげて発表する。</p>	<p>・グループでの活動に協力しない。</p>	<p>・各グループへの個別アドバイスをする。イメージがわきにくい生徒に模範を見せる</p>
<p>めあて◆選んだ短歌の言葉に、メロディーをつけ、モチーフを発表する♪</p>		
<p>・自作の短歌から、メロディーをつける言葉を選んでワークシートに記入する。</p> <p>・使う音、使うリズムをワークシートから選び、「メロディーの素（モチーフ）」を創る。</p> <p>・出来た「メロディーの素（モチーフ）」を画像で教師に提出する。</p> <p>・3～4人のグループに分かれ、選んだ言葉を持ち寄</p>	<p>・言葉の特徴や、表したいイメージを考えずに、言葉を選んだり、使う音、使うリズムを決める。</p> <p>・上手くつukれない。まとまらない。</p>	<p>・言葉のもつリズムや抑揚、また言葉や旋律が生み出す雰囲気を感じできるように説明する。</p> <p>・途中まででも、全員提出させ、問い返しの機会とする。</p>

<p>り、グループで創る音楽のタイトルを決める。音楽のタイトルを「〇〇を〇〇する音楽」と決める。</p> <p>・教師が、「メロディーの素(モチーフ)」を発表する。</p>	<p>・自作の「メロディーの素(モチーフ)」を聴いて、さらにつくりたい、自分で表現したい、と思う。</p>	<p>・生徒がつくったメロディーの抑揚や雰囲気を上手く表しながら発表する</p>
--	---	--

8 本時の評価の進め方と期待される生徒の姿

[本時の評価基準]

○【知識・技能】

音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。

創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。

○【思考・判断・表現】

旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

○【主体的に学習に取り組む態度】

言葉のリズムや抑揚と旋律のリズムや抑揚との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

[Aと判断される生徒の状況の例]

- ・音楽をつくるために必要な音の選択や組み合わせなどの技能が高い。
- ・どんな音楽にしようかと思いをめぐらせ、旋律やリズムのもつ雰囲気を感じながら音楽をつくっている。
- ・言葉のリズムと旋律のリズムの関わりに関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組んでいる。

[Cと判断されそうな生徒の状況への手立ての例]

- ・自分が表したいイメージをもたずに、課題や条件に取り組んでしまう。
→自分の表したいイメージがあり、音の選択をした例を教師が発表し、示す。
- ・自分のつくる旋律に、どんな音楽にしようかなどの思いがない。
→個別に、言葉の特質や雰囲気をイメージさせるように助言する。
- ・グループでの活動に協力しない。
→個別に、タイトルに合った旋律の組み合わせの可能性を示すように助言する。